

たより

掃水まちづくり協議会

平成19年11月15日
掃水まちづくり協議会
NO. 13

見出しの標語は「掃水まちづくり協議会の中心的運動標語です。地域の皆さんのあいさつへの協力をお願いします。」

地域の人と皆で あいさつをしましょう

地域のつながりを求めて

なぜ、掃水まちづくり協議会は「あいさつ運動」を推進するのでしょうか。

人間誰しも仕事を人と一緒にやれば楽しいし、それが普段からあいさつのできる友であれば余計楽しいものです。あいさつが進めばいろんな話ができます。関心のある趣味などで話し合いが出来ればより楽しいものではないかと、何か困ったとき、何か話し合いたいとき、普段からあいさつもしない人には相談もできません。一人でポツンとしていても何も面白くありません。誰しも元気なときはそれでもいいかも知れませんが、わずらわしい先のことなど考えたくもありません。

でも、いつ何が起るかわからないのが、今日この頃です。私たちが、今考えなければなら

らないのは、今のことではありません。五年先、十年先のことです。歳は確実にとっていきます。「これから先、誰にも世話にならない。」と言い切れないのが、人の運命です。小泉前首相が「こんなことを言っています。人生で体験する「さか」には三つあるそうです。

一つは「登坂」、二つは「下り坂」、三つ目は、「まさか」という「さか」だそうです。誰しも「たった一人になる」とか、「こんな事故に遭う」とか、「まさか」と考えないものです。普段からあいさつをして心を通わせることのできる間柄を作っておきたいものです。特に大切なのは「向こう三軒両隣」です。

ですから、クリーン作戦などの協議会の行事には近所で誘い合って、わいわい言つての参加が大変大切になります。

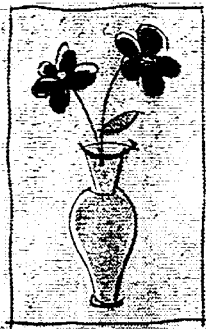


また、何よりも大切なわが子や孫には、少しでも幸せになつてほしいものです。であれば、こどもにも近所とのあいさつの大切さを説かなければなりません。

あなたの十年先は大丈夫ですか。決して、ひと事ではありませんが、どうでしょう。

小中学生の皆さんも協議会に参加！

今、新聞やテレビで報道されている日本は、大変な問題が次々起こり、どこでも、いつ何が起るかわからない混沌とした状況です。(少子高齢化、格差社会)



そこで、掃水校区では自治会が中心になつて「掃水まちづくり協議会」をつくり、地域の人たちが少しでもつながりを持ち、少しでも元気で、楽しい、安全安心なまちをつくらうとしています。(みんなが、元気で仲良く楽しいまちづくり)という協議会のテーマ)

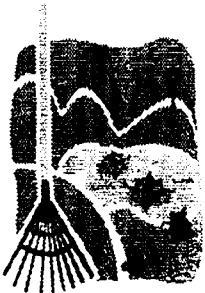
私たちは、これまでもこの地域のことをよくしようと、みんながあいさつをすることを推進し、小中学生の皆さんにもあいさつについて、たよりへの投

稿をお願いするなど我々の協議会活動にもすでに、参加してもらっています。

これからこの関係を一層推し進め、小中学生の皆さんにクリーン作戦へも参加していただき、小中学生から地域の環境問題に目を向け、関心を持って積極的に参加をしていただくことを考えています。これは小中学生の皆さんがこの地域の次の時代を担う重要な人と考え、主体的に取り組んでいただくことを考えているからです。

そこで、皆さんに各学年の代表者を決めていただきましたので紹介します。代表者を通じて小中学生の考え方を協議会に取り入れていこうと思っています。

- 東部中一年生 宇平勝哉 (豊原町)
 - 山本梨乃 (豊原町)
 - 東部中二年生 細川新悟 (山下町)
 - 丸島由布奈 (榎田町)
 - 東部中三年生 古森千博 (伊賀町)
 - 古島明日香 (伊賀町)
- 頼もしい方々です。



(裏面に続く)

シリーズ あいさつ運動

柿水小 六年生

前田 栞

私は、前期児童会運営委員になりました。運営委員の時にあいさつ運動を二回しました。一回目は六月ごろ一週間をかけて行いました。二回目は十月に東部中学校の人と一緒に旗を持って、三ヶ所に分かれて行いました。やっぱり、一回目にした時よりも二回目にした時の方があいさつをしてくれた人は多かったです。でも、自分からあいさつをする人は少なかったです。先にあいさつをすると後から大きな声であいさつをする人もいたし、はずかしがって小さい声であいさつをする人もいました。あいさつを返してくれると、私自身もうれしい気持ちになります。

私は、あいさつ運動をして、あいさつは大切な言葉だと思いました。だから、これからはもっともつとあいさつをだれにでもできるようにふやしていきたいと思いました。

栞地区防災訓練実施！
栞地区小学校グラウンド

防災訓練に参加して

豊原町 高松 和彦

秋晴れの好天に恵まれた地区防災訓練が十月二十九日、盛況のうちに柿水小グラウンドで行われました。九時の開会式で、まず目に飛び込んだのは参加者の多いこと、皆がヘルメットを着用し、今を遅しの待機状態、消防隊員の規律正しい機敏な動作、中でもさくら分団(女性で構成)の参加が花を添えてくれました。



一通りの訓練要領の説明後、訓練が始まった。

ここで、体験者として私の所見を述べさせていただきます。

①消火訓練→一人ひとりが消火器をもって「火事だ、火事だ」と大声で叫びながら消火盤へ向けて放水、鎮火。消火器には予め水を入れ経済効果満点な演習であった。

②起震車体験→能登半島地震、中越沖地震、阪神淡路地震など当時の実際の地震を真似た、震度を現実の揺れに合わせての体験だった。地震車もICを駆使し、

改良されたものであった。震度が増す毎に大変だった。いざ、直面したらどんななんだろうな・と、思われた。

③消火栓の接続訓練→オス、メスに分類され、外すときは難度を覚えたが、慣れればそう難しくはない。

④土のう訓練→土、または砂をスコップで袋に二・三杯入れる人、袋の口を結んで交互に積み上げる人。実際は土の量は、倍ぐらいにして交互に積み、築くようだ。

⑤バケツリレー訓練→全員が二列に並び、バケツリレーを行った。この方式は、初期消火には有効かと思われた。

⑥ホース三本接続訓練→帯状になったホース(二十M)を次々とつなぐ訓練だが、ホースは丸めてあり、大変重い、持つて足早に運ぶのは大変きついように思われた。

予定された訓練の後、全員体育館へ移動して、太田木造住宅耐震診断員の講話を受け、散会となりました。時計を見たらちようど十二時ジャストで無事終えることができ、意義のある半日を終えることができました。

栞川クリーン作戦

産養福興部

十一月二十五日(日)

予備日 十二月二日(日)

今年、近鉄線路の川下の堤防において、ゴミ拾いを実施します。ゴミというのは川や海を汚し、最後には自分たちに戻ってくる問題です。動員にこだわらず、ご近所誘い合って、家族そろって参加し、いろんな人と触れ合ってゴミについて話し合ってください。

今回は、小学校、中学校の皆さんの参加を新たにお願ひしています。ご近所の人からも参加について声をかけ、参加を盛めてやってください。

また、中学生の皆さんは、自主的に参加し、小学生の皆さんを是非、誘ってあげてください。

当日は調理ボランティアのご協力により「さといも汁」を振る舞う予定です。



ふれあいウォーキング

公民館活動部

平成十九年十二月九日(日)

午前九時より昼まで

集合場所 安楽天神

郷土をより知り、郷土の歴史文化に触れる「ふれあいウォーキング」を実施します。

安楽天神→山添町→山下池→市水道貯水タンク→安楽天神の約四キロです。山添からは初冬の里山の自然に触れていただきます。

また当日は、水道貯水タンクについてや周辺一帯にできる市の運動公園について、市の職員からの説明があります。ご近所誘い合って参加をしましょう。また当日ウォーキング終了後は温かいものを用意しています。

ふところ餅つき

保健福祉部

平成二十年一月十九日(土)

ふところ餅つきを左のように実施しますので参加者を募ります。

場所 市民センター

受付 九時三十分より

開会 十時より

対象者 小学生以上の方

持ち物 エプロン、三角巾、手ふきタオル、持帰り用の容器

参加費 ひとり百円

定員 三十名(応募者が多い場合は二回に分けます。)

締切日 十二月二十五日まで

申し込み先 市民センターへ